

防災 から考える 女性の視点

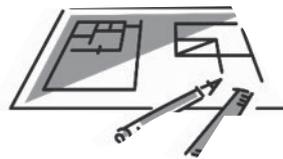


避難所で必要な
配慮って？



なぜ女性の
参画が必要なの？

災害時に女性が
抱える困りごと
とは？



災害という緊急時こそ、みんなで支え合う体制が必要です。
さまざまな立場の人が暮らす地域で、災害が起きたとき、
どうすればよいか考えてみましょう！

CONTENTS

- ・ 防災から考える女性の視点
- ・ 女性のための相談窓口の紹介

災害時に女性の視点が必要な理由

災害が起こったとき、私たちはさまざまな困難に直面しますが、男性、女性、性的マイノリティ、高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、外国人など、人によってその困難の質や度合いには違いがあります。

そのため、多様な視点を反映した対策が必要であり、特に災害時に女性の視点を取り入れる重要性は、防災・復興に関する取り組みの基本的な考え方の一つとして世界的に共有されています。

女性が力を発揮できる取り組みが災害に強い地域づくりにつながります！

これまで災害で起こった困りごと

災害発生



災害発生直後
避難開始

数か月後
避難生活



数か月～数年後
生活再建

困りごと（一例）

情報や避難行動から取り残される危険性

- 妊婦は重いものが持てない、足元が見にくい
- 乳幼児連れの保護者は、移動に時間がかかる
- 視覚や聴覚に障がいがある人等は、避難・支援情報等の入手が難しい



物資の不足と管理

- 女性用下着、妊産婦用の衣類、生理用品、育児・介護用品が不足する
- 生理用品や下着を男性が配っていて受け取りづらい
- 粉ミルクと哺乳瓶はあるが、殺菌消毒する方法がない

プライバシーの問題

- 更衣室が男女別に分かれていない
- 授乳が安全にできない

安全面での不安

- 屋外の仮設トイレは男女兼用で夜は暗い
- 性暴力に遭う

性別による役割の固定

- 避難所責任者の大半が男性で、過度な負担が集中する
- 女性だけが炊き出しを担当する

男性の過労、孤独死

- 救助、復旧、復興等の仕事が続き、疲弊する
- 男性のほうが孤立しやすく、孤独死が多い



過去の災害では、女性が避難所運営等に十分に参画できず、女性のニーズが反映されない、必要な物資や支援が提供されないといった課題が生じました。

困りごとに対する取り組み

高齢者や障がい者等への対応においても女性のニーズに配慮しよう！



災害時には、乳幼児や介助・介護が必要な高齢者・障がい者のいる世帯、ひとり親世帯等において、影響が深刻化する傾向にあります。しかも、そのケアを担っているのは、多くの場合が女性です。そのため、女性のニーズを踏まえた支援が被害全体を縮小することにつながります。

注目！

性別役割分担意識があるため、子育てや介護等は女性が担うことがほとんどです。男性も女性も仕事と家庭の両立を図り、適切な役割分担を考えましょう。

自主防災組織や自治会活動に女性も参画しよう！



自主防災組織や自治会役員における女性の割合は低い現状にあります。そのため、災害への平常時の備え、災害時、復旧・復興の各場面において女性の意見や女性のニーズが反映されにくく、必要な支援ができなくなるおそれがあります。

男性だけでなく女性も声を上げやすい環境をつくるために、女性も運営等に参画できるようにしましょう。

性別で役割を固定せず、柔軟な役割分担をしよう！



「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担意識はまだ根強く残っています。そのため、災害時にはより一層女性の家事・育児等の負担が増える一方で、男性は仕事や家庭への経済的な責任で追い込まれてしまうことがあります。

近年は仕事をする女性や子育て・家事等を担う男性も増加しているので、性別で役割を決めず、みんな同じ「避難者」であることを認識し、誰もができることを行いましょう。

男性が抱える困難も理解しよう！



災害による環境の変化で、アルコール・たばこへの依存や配偶者・子どもへの暴力、仮設住宅や復興住宅での孤独死等の男性が抱える課題があります。

また、父子家庭は地域とのつながりが薄いことが多く、就業・生活支援も少ないなどのさまざまな潜在的な課題もあります

男性が気兼ねなく集まる機会や居場所づくりなどが重要です。

注目！

「男性は弱音を吐いてはいけない」という無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)により、男性は困りごとを一人で抱え込んでしまう傾向があります。

平常時から「男性はこうあるべき」という意識を解消しましょう。

